

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
〈専〉京都建築大学校	平成2年10月22日	小田 晃	〒622-0041 京都府南丹市園部町小山東町二本松1-17 (電話)0771-63-1010			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人二本松学院	平成2年10月22日	理事長 新谷秀一	〒622-0041 京都府南丹市園部町小山東町二本松1-17 (電話)0771-63-1010			
目 的	<p>「本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、建設技術に関する専門的知識および技術を修得させて、社会に有用な人物の育成を図ることを目的とする。(学則第1条)」</p> <p>本校は「社会から求められる即戦力となる人材の育成」を理念に掲げ、開校当初から建築業界で必要とされる実務力および実務に必要とされる資格を在学中に取得させることを教育の基本に据え、加えて実社会で求められる倫理観や人間力を身につけた専門的職業人の育成を図っている。実習系の授業には、建築・インテリアの業界から経験豊富な指導者を確保するとともに、卒業生の受け入れなど、関係団体等と連携しながら運営に努めている。</p>					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	建築学科	4年(昼)	3,420単位時間 (又は単位)	—	平成20年文部科学大臣告示第15号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,710単位時間 (又は単位)	720単位時間 (又は単位)	60単位時間 (又は単位)	1,980単位時間 (又は単位)	60単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
400人	155人	24人	44人	68人		
学期制度	■「前期：4月1日～9月30日」 ■「後期：10月1日～3月31日」			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月8日～9月9日 ■冬 季：12月26日～1月6日 ■学 年 末：3月21日～3月31日			卒業・進級条件	学則に定めた授業科目の履修をもって卒業及び進級条件とする	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任が、個人指導、保護者との連携指導に努めている。			課外活動	■課外活動の種類 地元南丹市園部町内の清掃活動 祇園祭山鉾巡行への参加 ■サークル活動(有・無)	

<p>就職等の状況</p>	<p>■主な就職先、業界 (官公庁、公共機関、総合建設、工務店、 ハウスメーカー、建築・インテリア 設計事務所等)</p> <p>■就職率 100.0%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合 100.0%</p> <p>(平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の情報)</p>	<p>主な資格・検定</p>	<p>二級建築士、木造建築士インテリアプラン ナー、インテリア設計士、インテリアコー ディネーター、測量士補、2級建築施工管 理技術検定、カラーコーディネーター、 福祉住環境コーディネーター、CAD 利用技 術者試験、宅地建物取引主任者等</p>
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 建築学科 0名 ■中退率 0% (平成28年度) 平成28年4月1日在学者 建築学科 125名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日在学者 建築学科 125名 (平成29年3月卒業生を含む) (他学科への転籍者 0名)</p> <p>■中退防止のための取組 クラス担任教員が欠席や怠学傾向にある生徒への個別指導に務めている。出席率が基準を下回ると文書で保証人にも通知し、教員と連動して出席を促している。状況によって担任以外の教員及び校長との面談を実施し指導している。怠学・欠席等による学業不振者については定期的に補講を実施し、休退学にならないように努めている。</p>		
<p>ホームページ</p>	<p>URL: <a href="http://www.kasd.ac.jp/">http://www.kasd.ac.jp/</a></p>		

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校は平成3年の開校以来、建築・インテリア業界における「即戦力として社会に通用する人材の育成」を理念に建築・インテリアの専門教育を実施し、本年度で26年目を迎えた。その間、当初他校に類を見ない専科在学中の二級建築士等資格取得システムや放送大学との連携による学士号取得システム、一級建築士受験や大学院進学が大学建築学科と同等に扱われる高度専門課程の設置など常に社会と業界の動向を把握し、学生にとってより良い「新しい教育のカタチ」を模索・実践してきた。

これまで二級・木造建築士やインテリアプランナー等の資格検定試験では10年以上に渡って合格者数日本一を維持し、それら以外の建築関連資格においても多数合格者を輩出することで社会・企業から高い評価を受けている。

しかし、我が国における建築・インテリア業界を取り巻く社会状況は更に厳しさを増している。環境に対する意識が高まり、新技術や設備等が開発され、それらの新しい知識・技術の習得は必須であり、加えて建築士の社会に対する影響力の高さを考えるとき、その職責に対して、より一層の高い意識が求められている。また、環境・エネルギー問題、景観・コミュニティへの配慮、社会的弱者や防災等への対応などデザインや知識・技術だけではなく多くの新しい課題が提示されており、特に、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの多くの自然災害は業界のみならず社会全体に大きな教訓を与えることとなった。このような状況の中で本校では、これからの時代を切り開いていく「真に社会に必要とされる人材の育成を目指したより実践的な」新しい教育プログラムが必要であると考えている。

本校は「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成」(学校教育法第124条 [専修学校])を目的に、建築・インテリアの知識・技能修得を主とした専門学校教育を行ってきた。教育課程の特徴として専門実習演習時間は全体の約50%以上を確保し、教員には一級建築士やインテリアプランナー・インテリア設計士等の現役技術者を当て、専門技術の修得に当たっては基礎・基本を重視し、より実践的な教育を行っている。開校以来四半世紀を經過し、10,000人を超える卒業生の中から、京都府を始め、全国に建築・インテリアの技術者を数多く送り出している。

以上の経過から、一般社団法人京都府建築士会南丹支部、一般社団法人関西インテリアプランナー協会、一般社団法人日本インテリア設計士協会京都支部、一般社団法人京都府専修学校各種学校協会等との産官学連携のもとで、教育課程の編成、授業科目の開設、授業改善等を行ってきた。また、建築・インテリアの実務に係る実習系科目の教員は各業界からの推薦及び派遣を得て確保している。さらに卒業生の受け入れについてもこれら産業界が積極的にかかわっている。

教育課程の編成にあたっては、建築教育に知見のある、建築業界の代表、学術機関の有識者で構成する「教育課程編成委員会」を設置し、当該専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の見直し、授業内容・方法の改善等を行い、斯界の要望にこたえる人材育成を目指した教育課程の再編成を適宜行っている。

平成21年度に設置された四年制高度専門課程の建築学科も平成28年度には第5期の卒業生を送り出した。建築学科卒業生は『高度専門士号』が授与され、規定の要件を満たせば2年間の実務経験の後に一級建築士の受験資格の取得や建築系大学院進学など大学建築学科卒業生と同様に扱われる。平成27年度からは本学卒業生を対象とした一級建築士受験対策講座にも在学中から参加が出来るなどサポートにも力を入れ、平成28年度の卒業生全体の一級建築士合格者数は43名となり、専門学校では1位、四年制大学を含めたランキングでも13位にあたる合格者を輩出した。

また、建築学科は職業実践専門課程として企業等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な教育に取り組んでいる。それらの建築の専門知識・技術の修得および各種関連資格取得に加え、総合的な視野を持ちながら建築的課題の理解と解決へと繋げられるような実践的カリキュラムを構築している。その中でも特にゼミは、開講するゼミを増やして全14ゼミを開講しつつ、1ゼミあたりの所属学生数を10人以下とし、指導の密度をより高めるようにした。近畿建築士会協議会主催の地域実践活動発表会においてプロの建築士に混ざって、学生代表として指名を受けてプレゼンテーションを行ったり、日本建築学会近畿支部主催「卒業設計コンクール」などの多くの学外的设计競技でも入選を果たすなど着実に成果が出てきている。また、グループ校の京都美術工芸大学・京都伝統工芸大学校との密接な連携協力やパリ・エコールブール校との交換留学などの新たな教育機会の付与、新たにBIM(Building Information Modeling)実習を実施するなど実務を行う上で有益と考えられるものは積極的にカリキュラムに取り入れていく。資格取得と実践力・社会人基礎力の獲得のバランスを取りながら、より充実した教育を実現できるように今後も取り組んでいく方針である。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年 3月 15日現在

名 前	所 属
中西 健志	一般社団法人 京都府建築士会 南丹支部長
八木 光也	京都府インテリア設計士協会 副会長
小梶 吉隆	一般社団法人 関西インテリアプランナー協会 会長
安藤 眞吾	京都美術工芸大学教授・公益社団法人 日本インテリアデザイナー協会理事
北村 雅昭	学校法人二本松学院 企画推進室長
小田 晃	京都建築大学校 校長
広辻 雅之	京都建築大学校 教務部長

### (開催日時)

平成29年3月15日 11:00~12:30

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校は「即戦力として社会に通用する人材の育成」を理念に建築・インテリアの知識・技能修得を主とした専門学校教育を行ってきた。教育課程の特徴として専門実習演習時間は全体の約50%以上を確保し、建築・インテリアに関連する職業に必要な実践的かつ専門的な能力・資格を育成・取得するため、設計製図実習、CAD実習、インテリアプランニングなどの実習系授業科目の教員は、それぞれ各業界組合からの派遣を受け、各団体と組織的な連携のもとで専門的な職業実践教育を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
建築設計製図実習Ⅰ～Ⅹ	建築設計製図実習Ⅰ～Ⅹでは、実務に即した建築設計製図の知識と技術を基礎から課題制作の中で修得し、模写から自由制作、卒業制作まで発展的に学習する。	京都府建築士会南丹支部、京都府インテリア設計士協会、一級建築士事務所小笠原・林建築設計研究所等
CAD実習Ⅰ～Ⅳ	パソコン実務に即するCADの機能を習得する。基礎から課題制作の中でより高度で実践的な建築図面をCADで設計する。	関西インテリアプランナー協会、地域にねざすTAPROOT等
インテリアプランニングⅠ・Ⅱ	インテリアの基礎知識に加えて、着彩・ドローイング・スケッチの技法およびパースの応用技法などを学び具体的なインテリアの作品制作を課題とする。	京都府建築士会南丹支部、京都府インテリア設計士協会
建築設計製図応用実習Ⅱ	各講義、各設計製図実習等で得た知識、技法を元に小規模一般建築の配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図等の基本設計図一式を数多く実習することにより、短時間で設計製図する能力を身につける。	一級建築士事務所伏木道雄建築士設計事務所

## 3. 教員の研修等

### (教員の研修等の基本方針)

これまで、年度当初に全教員会議を実施し、年間授業計画、授業方法等に関し意見交換を中心に研修を行い、また、卒業研究講評審査会等において授業評価研修を行ってきた。

今後は、更なる授業改善のためのアンケートやヒアリングの実施や、外部有識者を招いての講習を実施したい。また教員を連携関連団体や企業に研修派遣し指導力向上を図る。

## 4. 学校関係者評価

### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年 3月 15日現在

名前	所属
相川 三郎	一般社団法人 京都府専修学校各種学校協会 副会長
江崎 信芳	放送大学 京都学習センター 所長
熊谷 勝	株式会社 くまのすみか 取締役会長
疋田 友一	一般社団法人 日本インテリア設計士協会 会長
畠山 千代	京都建築大学校卒業生 畠山 悟さんの保護者
樋口 浩之	京都建築大学校卒業生・ヒグチヒロユキ一級建築士事務所 所長
松尾 もえ人	京都建築大学校卒業生
小田 晃	京都建築大学校 校長
広辻 雅之	京都建築大学校 教務部長

### (学校関係者評価結果の公表方法)

学校法人二本松学院のホームページで公表する。

URL: <http://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/>

## 5. 情報提供

### (情報提供の方法)

京都建築大学校のホームページで情報提供する。

URL: <http://www.kasd.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
	○		コミュニケーション	社会人、あるいは建築技術者として社会で活躍するために必要な一般常識、礼儀等を修得する。また、将来のキャリア形成に必要な資格や能力について学び、各自の仕事観について考察する。	1通	30	2	○		
	○		特別活動	机上の学習だけでは得にくい協調性やモラルを、校外活動を通して養う。具体的には各種行事への参加を通して社会の実情や規範を知り、地域や他者との連携の必要性を学ぶ。	1後	30	2	○		
		○	英語Ⅰ	英文の読解を通して、基礎的な英語の理解力を養成する。また、世界の情勢や異なる文化圏の価値観に触れることで、よりグローバルな視野をもつことを目標とする。	1前	30	2	○		
		○	英語Ⅱ	英語Ⅱでは、基礎文法能力だけでなく、リスニングとショート・スピーチを行い、自然な発音、イントネーション、リズムなど英語自体の特徴に慣れ、より日常的に英会話の活用が出来るようになることを目標とする。	1後	30	2	○		
		○	教養学Ⅰ	社会人基礎力として重視されている「考え抜く力」「思考力」について理解を深め、ものごとを論理的に考え、洞察する力をアクティブラーニングにより養成する。	3後	30	2	○		
		○	教養学Ⅱ	他者に対して正確に表現し、分かり易く伝えるプレゼンテーション能力について理解を深め、講義中にアクティブラーニングにより実践することで各自の長所や改善点を知る。	3後	30	2	○		
		○	社会常識演習	卒業後、社会人として活躍するために必要な常識やビジネスマナーを学ぶ。また、キャリアサポートセンターと連携し、最新の業界の動向を踏まえながら職業人としての意識を涵養する。	4前	30	1		○	
○			建築構造概論Ⅰ	建築を初めて学ぶ学生のための基本的な建築のしくみについて学ぶ。建築物の構成や基礎、構造方式や主体・仕上げの各工法などについて、イラストや写真を使用しながら学ぶ。建築構造概論Ⅰでは、軸組と基礎、小屋組、部材の接合法、耐力壁・筋かいの配置、ツーバイフォー構法等を取り扱う。	1前	30	2	○		

○			建築構造概論Ⅱ	建築物の主体である鋼構造（鋼構造の特性、材料、許容応力度、接合方法、耐震設計上留意すべき基本的事項、軸組構法、トラス構法、軽量形鋼構法等）・鉄筋コンクリート構造（材料と構造、各部材の設計、耐震設計上留意すべき基本的事項ラーメン構法、壁式構法等）等の基礎的知識を理解する。	1 後	30	2	○		
○			構造力学Ⅰ	各種構造物の力学に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、構造物やその構造に発生する荷重や応力などを理解することに重点を置き、力のつり合いの概念を理解させる。静定梁、静定ラーメンに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身につけ、許容応力度設計法の基礎を確実にする。	1 前	30	2	○		
○			構造力学Ⅱ	静定トラスに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身につけ、許容応力度設計法と不静定構造に生じる力の算定方法を身につける。構造力学Ⅱでは、静定トラスの解法、断面の性質（断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数）、部材に生ずる応力度、はりの変形（たわみとたわみ角、モールの定理）、不静定構造物の解法を取り扱う。	1 後	30	2	○		
○			建築計画Ⅰ	建築物の種類や機能は多様であるが、いずれも個人的・社会的人間生活を含むものであり、快適で安全な場を提供する必要がある。これらの要求を総合的に計画する方法を学ぶ。建築計画Ⅰでは、建築計画の概念、計画プロセス、人間行動と建築の内外部空間との関係、地域や社会の為の空間構成等について取り扱う。	1 前	30	2	○		
○			建築計画Ⅱ	建築計画Ⅰをベースに、より幅広い要求を総合的に計画する方法を学び、社会的な要求を満たした建築物を合理的に設計する能力を養う。建築計画Ⅱでは、日本の住宅建築についての理解を深める。具体的には、住宅の近代化の流れ、これからの時代の住宅建築のあり方、集合住宅の計画、これまでの集合住宅とこれからの方向性等について学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			建築計画Ⅲ	建築計画Ⅱに続いて、規模が大きく機能も複雑な公共建築と商業建築の計画を学ぶ。また具体的な建築事例から、その計画手法や建築理念を探り、高齢者等への対応を含め、実際の建築計画に活かせる計画能力を養う。建築計画Ⅲでは、学校建築の誕生と進化、図書館の起源・種類とシステム、病院建築の概念と基本計画、事務所建築等を取り扱う。	2 前	30	2	○		

○		建築計画Ⅳ	建築計画Ⅲに続いて、規模が大きく機能も複雑な公共建築の主に美術館・博物館、劇場、高齢者や身体にハンディキャップを持った人たちのための福祉施設等大空間の計画を学ぶ。また具体的な建築事例から、その計画手法や建築理念を探り、高齢者や身体にハンディキャップを持った人たち等への対応を含め、実際の建築計画に活かせる計画能力を養う。	2 後	30	2	○		
○		建築施工Ⅰ	建築工事の施工に関する業務で必要な知識を学ぶ。具体的には、各工事種別の材料、施工法等、更に建物の建設過程での基礎的な知識を総合的に習得し、実際の業務に活用できる能力を養う。建築施工Ⅰにおいては主に施工計画及び地盤調査・仮設工事までを学習する。	2 前	30	2	○		
	○	建築施工Ⅱ	各工事種別の材料、施工法等を具体的に学び、建物が出来上がっていく過程での基礎的な知識を総合的に習得し、実際の業務に活用できる能力を養うという目的はⅠと同様である。建築施工Ⅱにおいては主に土工事から躯体工事に至るまでの施工方法を学習する。	2 後	30	2	○		
○		建築関連法規Ⅰ	建物を設計し建設するには各種の法的規制が関わる。ここでは主に建築基準法を理解し、法規として遵守すべき基本的事項及び計画・設計、工事に必要な基準、規定について学ぶ。建築関連法規Ⅰでは、用語の意味、建物の建設にあたり必要となる申請及び確認についての手続き、建築物の敷地面積、建築面積、及び延べ面積等の基本的知識を理解する。	2 前	30	2	○		
	○	建築関連法規Ⅱ	建築士法、都市計画法など、建築関連法規と社会生活との関連を理解し、法規として遵守すべき基本的な事項および建築の計画・設計、工事に必要な基準、規定について学ぶ。建築関連法規Ⅱでは、集団規定、建築士法、建設業法、消防法、都市計画法、住宅の品質確保促進法等幅広く理解する。	2 後	30	2	○		
	○	建築史Ⅰ	日本における西洋建築の歴史を、各時代の様式と技術を中心に学び、建築造形の発展の過程を理解する。また、住居の発達と変遷の過程を知り、私たちの住まいの伝統とその造形の原理を学ぶ。建築史Ⅰでは、日本の古代・中世、建築技術の発達、日本の住宅史、西洋の古代・中世、大工道具の進化と建築技術の変化等を取り扱う。	1 前	30	2	○		

	○		建築史Ⅱ	日本と西洋の建築の歴史を各時代の様式と技術を中心に学び、建築造形の発展の過程を理解する。原初的な建築および各時代の建築様式の代表的な事例と現代の建築に及ぼしている影響などについて解説する。また、住居の発達と変遷の過程を知り、私たちの住まいの伝統とその造形の原理を学ぶ。Ⅱは主に近世～現代迄の内容とする。	3 後	30	2	○		
	○		環境工学Ⅰ	人間生活の器であるとされる建築物に、直接・間接に影響をおよぼす内外の環境条件について総合的に理解し、計画設計に応用する能力を養う。環境工学Ⅰにおいては主に室内環境、外部環境、地球環境、換気、伝熱、結露およびその防止について、日照、日射、日影などについての理解を深める。	1 前	30	2	○		
	○		建築設備Ⅰ	快適で能率的な生活環境を確保することを目的とした建築設備の計画は、建築の価値を決定する大きな要素である。ここでは給排水設備の方式や衛生・防災設備などについてその概要を学ぶ。具体的には、給水設備、給湯設備、排水設備、衛生器具設備、排水処理設備、消防設備、防災設備等を取り扱う。	2 前	30	2	○		
	○		建築設備Ⅱ	快適で能率的な生活環境を確保することを目的とした建築設備の計画は、建築の価値を決定する大きな要素である。ここでは諸設備の方式や施工方法など、建築設備の関連事項についてその概要を学ぶ。具体的には、空調設備、電気設備、搬送設備、設備融合等を取り扱う。	2 後	30	2	○		
	○		建築材料Ⅰ	鋼材や木材、コンクリートなど、建築物を構成する各種構造材料について、その性質や使われている建築物、場所などを具体的な使用例に即して学習する。木材の物理的性質や力学的性質、鋼材の性質、鋼の種類、セメントの性質と種類、コンクリートの性質と種類についての理解を深める。	1 前	30	2	○		
	○		建築材料Ⅱ	建築を構成する材料の特性や、それを用いて目的に適合する建築物をつくる方法、構造との関連等を理解する。建築材料Ⅱでは、防水材料、屋根材料、外装用材料、床用材料、壁用材料、天井材料、塗料・接着剤等についての理解を深める。	2 前	30	2	○		
	○		建築計画特論	二級・木造建築士試験における建築計画分野（建築史、環境工学、計画概論、計画各論、建築設備等）の学科試験レベルに対応できる知識の修得。	3 前	60	4	○		
	○		建築法規特論	二級・木造建築士試験における建築関連法規分野の学科試験レベルに対応できる知識の修得。	3 前	60	4	○		

	○		一般構造特論	二級・木造建築士試験における建築一般構造分野の学科試験レベルに対応できる知識の修得。	3前	60	4	○		
	○		構造力学特論	二級・木造建築士試験における建築構造力学分野の学科試験レベルに対応できる知識の修得。	3前	60	4	○		
	○		建築施工特論	二級・木造建築士試験における建築施工分野の学科試験レベルに対応できる知識の修得。	3前	60	4	○		
	○		建築特論Ⅰ	1年次から3年次にかけて得た知見を統合させ、建築を取り巻く社会や環境問題、あるいは街づくりやソーシャルデザインにまで対象をひろげて、具体的な事例を学習し、考察を深める。	4前	30	2	○		
	○		建築特論Ⅱ	主に和の空間・建築の実践的な空間設計手法について、講義と実際の空間・建築をフィールドワークにより体験しながら統合的に修得する。また、和の空間・建築構成を西洋のものと比較しつつ、その特質をより明確にし、理解する。	4後	30	2	○		
	○		高度建築計画	実例を通して各種建築物の総合的建築計画手法を学ぶ。また、実務を前提として必要と考えられる実際的な知識を習得する。また、関連する分野との総合的・統合的な事例についても学習する。	3後	30	2	○		
	○		高度構造力学	実例を通して不静定構造物、高層・超高層建築物、公共・大規模建築物（オフィスビル、学校建築、病院、図書館、ホテル宿泊施設、劇場・映画館、百貨店や集合住宅など）の構造計算書を作成できる知識を習得する。また海外の著名な建築物についても紹介する。	4前	30	2	○		
	○		高度一般構造	実例を通して超高層・大規模建築物の一般構造を構造力学、構造設計に関連づけて理解する。また、実務で知っておく必要のある最新の建築に関連する構造及び建築材料についても国内および海外の著名な建築物実例をもとにして学ぶ。	4前	30	2	○		
	○		高度建築法規	実例を通して主に大規模建築物、特殊建築物、高層建築物などに関する建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法その他関連法を法令集と総合的に関連付けて習得する。また、特殊な事例や実務者として知っておくべき事項についても併せて学習する。	4前	30	2	○		
	○		高度建築施工	1, 2年次に学習した基本的事項を基に、具体的な実例を通して各施工法と各管理法を関連付けて学習し、実務者として実際に建築物を施工指導できる技術を習得する。施工計画、安全衛生管理、工程管理、品質管理などを学ぶ。	4前	30	2	○		

	○		ランドスケープ	自然環境と人間生活の関わりを中心に、外部空間の計画等についての知識と技術を学び、さらに庭園から都市環境にいたる、地域的スケールでの開発と保全について、その考え方を学ぶ。また屋外空間と内部空間の関連について建築的な視点から校外実習もまじえながら学習する。	3 後	30	2	○		
	○		建築デザイン論	建築デザインの基本や手法について、国内外の著名な建築家（ル・コルビュジエ、ミース、ライト、カーン、ザハ・ハディド、コールハース、吉村順三、丹下健三、安藤忠雄、伊東豊雄、妹島和世など）の作品などを通して学ぶ。	4 後	30	2	○		
	○		デザイン史	主として産業革命以後の造形の歴史を地域と時代の文化との関連において理解し、ものを創造する力と鑑賞し評価する力を養う。主な内容としてはアーツアンドクラフツ、アールヌーボー、ゼツェッション、バウハウス、工作連盟運動、CIAM など。それぞれの内容と歴史的な意義、および現代の建築にどのような影響を及ぼしているかについて学ぶ。	4 後	30	2	○		
		○	インテリア技術Ⅰ	インテリア図面の制作を通して、建築設計・インテリア設計に関する技術を総合的に理解し、建築的造形力と、それを表現するテクニックを養う。インテリア技術Ⅰは色彩・素材・家具・内装材について学習する。また、ドローイング・スケッチ・パース（透視図）の基本的な技法の習得のための実習を行う。	4 後	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅠ	室内計画の基礎を学ぶ。具体的には、人体尺度、単位空間、色彩計画などの基礎的知識を理解し、室内における平面計画を学習する。インテリアデザインⅠでは、インテリアとエクステリアの関係、インテリアのスケール、インテリア空間の構成、西洋のインテリアの家具の歴史、日本の住宅のインテリアの歴史と家具、現代社会の問題とインテリアの課題等を取り扱う。	1 前	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅡ	インテリアデザインⅠに引き続き、室内計画の基礎を学ぶ。平面計画に加えて、ゾーニング、動線計画、家具設計などを学び、より高度な室内計画を設計する知識を身につける。インテリアの意匠、インテリアの計画、インテリアの材料、インテリアの構法等も取り扱う。	1 後	30	2	○		
	○		インテリアデザインⅢ	室内計画において重要な設備関係についての基礎的知識を学習する。また、主に室内を構成する建築材料について、その種類や特性について理解する。室内における収納機能を持つ家具についての基礎的知識を習得する。	2 前	30	2	○		

	○		インテリアデザインⅣ	家具の構造についての理解を深めることにより、室内における安全性について学ぶ。また、カーテンやカーペットの素材や種類などを理解し、その使用方法について学ぶことにより、室内装飾についての理解を深める。室内に関する法規（内装制限など）を学び、理解する。	2後	30	2	○		
	○		基礎造形学Ⅰ	人間は、観察することから造形的なヒントを得、物体の真の理解を行う。基礎造形学Ⅰでは、デッサンや彫塑などの表現方法の理解を深め、創造の基礎を学習する。	1前	30	2	○		
	○		基礎造形学Ⅱ	造形表現を理解し創造するためには、理論的にかたちを作り出す能力が必要である。基礎造形学Ⅱでは、平面と立体の両面から、色彩、形態、素材、構造などの造形原理を理解し、造形表現の力を育てていく。	1後	30	2	○		
	○		空間デザインⅠ	自然の造形や美術作品をはじめとする過去から現在の建築や集落などの実例などをもとにして、人々の生活に関わる建築空間とデザインの基本的な成り立ちを学び、建築的な視点を養う。空間デザインⅠでは、感覚によってとらえられる空間、視知覚による空間認識、3次元としての容積の知覚、空間演出、街並みの景観等について理解を深める。	2前	30	2	○		
	○		空間デザインⅡ	空間デザインⅠに引き続き、空間デザインに対する基本的な考え方と方法を学ぶ。人間の文化的・社会的行為から、空間の単位、寸法などの基本的な構成に関わるものまでをキーワードとして取り上げる。空間デザインⅡでは、空間の計画の必要性、寸法・形はどのように決められるのか、自然界のもの・大きさ、建築空間のスケール、人体と空間等を取り扱う。	2後	30	2	○		
		○	特別講義	外部講師による集中演習形式のワークショップとして開講する。テーマとしては、京都府内の地域スタディを予定している。建築及び空間を都市レベルの視点で検討することから、その問題点を抽出・分析して改善策を具体的な提案レベルまで作成できる統合的な能力を養成する。	4後	30	2	○		
		○	住居論	住生活を営む生活者の立場から、住居とライフスタイルとの関わり、住居と生活意識との関わり等について学習し、住宅計画の変遷をたどりながら考察を深める。	3後	30	2	○		
	○		建築構造設計Ⅰ	鉄筋コンクリート構造の応力計算、断面設計、接合部の設計などの方法を学び、現在日本で行われている構造設計の概要を理解する。建築構造設計Ⅰでは、荷重の算定（固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力）、鉄筋コンクリート構造の設計（はりの断面算定、柱の断面算定、スラブの設計、基礎断面算定 等）について学習する。	2前	30	1		○	

	○		建築構造設計Ⅱ	鉄骨構造の応力計算、断面設計、接合部の設計などの方法を学び、現在日本で行われている構造設計の概要を理解する。また大地震に対応した設計法も学ぶ。建築構造設計Ⅱでは、鉄骨構造の設計（座屈荷重の算定、高力ボルト本数、溶接部の検討）、大地震時の設計法（振動解析、剛性率・偏心率、部材の塑性解析等）について学習する。	2 後	30	1		○	
	○		構造設計演習	構造設計と連動して、鉄筋コンクリート構造部材の設計計算演習、ならびに鉄骨構造の設計計算演習を通して構造設計2単位の内容を反復し理解を深める。構造設計演習では、鉄筋コンクリート構造（はりの断面算定、柱の断面算定）、土質力学による耐力計算、基礎断面算定、引張材に生じる力の算定、高力ボルト本数・溶接部の検討等を取り扱う。	2 通	30	1		○	
	○		構造力学演習	構造力学4単位に連動して構造力学の要目別に基本的な問題についてその解法を学ぶ。演習を通じてその技術を習得する。これにより、2年次で学ぶ構造設計、構造計算を理解するための基礎を固める。構造力学演習では、力のつり合い、静定構造物の応力、静定トラスの解法、断面の性質、部材に生ずる応力度、はりの変形等について取り扱う。	1 通	30	1		○	
		○	和風建築見学研修	各時代を代表する著名な和風の建築物の実物を担当教員の引率・解説により見学し、建築物毎に学生がその様式、意匠、時代背景等を調査研究する。併せて調査の分析、報告書の書き方についても習得する。本年度は京都市内の伝統的な建築物を見学する。	3 後	30	1		○	
		○	洋風建築見学研修	明治～平成の洋風建築物の実物を担当教員の引率・解説により見学し、建築物毎に学生がその様式、意匠、時代背景等を調査研究する。合わせて調査の分析、報告書の書き方についても習得する。本年度は関西に存在する洋風建築物を見学する。	4 後	30	1		○	
	○		木造建築演習	日本独自の木造建築について木材の特性や法的規制を踏まえたうえで、戸建住宅の木造軸組（在来）工法、枠組壁工法、工業化住宅などを中心に、その特徴を学習する。	3 前	60	2		○	
	○		インテリアプランニングⅠ	1・2年で学んできたインテリアの基礎知識を生かし、具体的なインテリアの作品制作を課題とする。インテリアプランニングⅠではインテリアの着彩やドローイングの技法、スケッチの技法、パースの応用技法などを学び、一日課題を作成する。	3 前	120	4		○	

	○		インテリア プランニン グⅡ	1・2年およびインテリアプランニングⅠで学んできたインテリアの基礎知識を生かし、具体的なインテリアの作品制作を課題とする。インテリアプランニングⅡでは各人でテーマを設定し、オリジナルのインテリア作品とポートフォリオを制作する。また最終的に一人ずつプレゼンテーションを行う。	3 後	120	4		○	
	○		空間表現Ⅰ	歴史的な空間を事例にとり、建築計画や空間デザインの基本的な考え方をゼミ形式で習得する。また、その事例を学び、それらを分析する方法を習得する。3次元CADなどによる表現手法の基礎を学び設計課題を作成する。あわせて、手描きによる表現手法についても学習する。	4 前	120	4		○	
	○		空間表現Ⅱ	建築・空間デザインの手がかりとなる思想的・事象的背景をキーワードに、歴史的建築やインテリア空間などの事例を用いてゼミ形式で学んでいく。また、建築の用途や機能によって異なる建築・空間のデザインの基本的な特徴とこれらを成立させるための空間計画やデザイン手法について考える。	4 後	120	4		○	
○			建築設計製 図実習Ⅰ	建築製図の基本と各種建築図面の書き方を学習する。具体的には、製図用具の使い方、線の引き方、各種図面や線の持つ意味などについて理解を深める。建築設計製図実習Ⅰでは作図力の基礎を確立することを目的に授業を行う。模写製図課題を設定し、製図の基礎の習得をはかりながら、各種図面を模写する。テキストを利用した製図課題を基本とする。木造を中心に、平面図・立面図・断面図・矩計図の模写を行う。	1 前	90	3			○
○			建築設計製 図実習Ⅱ	建築設計製図実習Ⅱは、設計力の向上を目的として、建築設計（エスキス）の手法を学習する。具体的には、エスキスのまとめ方、設計手法、考え方、設計の常識等を学習する。また、自分で制作した作品（図面・模型・スケッチ・彩色）のプレゼンテーションを行う。鉄筋コンクリート造の図面（平面図・立面図・断面図）を取り扱う。	1 後	90	3			○
○			建築設計製 図実習Ⅲ	エスキスを通して各種建築物の設計全般に関する基本的な知識と能力を養う。製図模写により二級建築士試験レベルの製図を学習する。建築設計製図実習Ⅲはエスキス中心とする。自宅学習、授業でエスキス作成を繰り返す。授業では、個別添削指導を行う。エスキス課題数は5～6を予定している。模写製図課題数は4～5を予定している。	2 前	90	3			○

○			建築設計製図実習Ⅳ	建築設計製図実習Ⅳでは、三次元の設計能力を養う。具体的には、立面・断面の理解を深める。作品を制作し、発表することは、建築設計製図実習Ⅱと同様である。自宅学習、授業でエスキス作成を繰り返す。授業では個別添削指導を行う。ここでもエスキス課題数は5～6を予定している。設計製図課題として、エスキス課題で作成したエスキスの図面化を行う。2～3の課題を予定している。	2 後	90	3			○
	○		建築設計製図実習Ⅴ	建築設計製図実習Ⅴでは、最終的には個別に建築的なテーマを設定し、作品を制作・発表する。自宅学習と授業で指導教員のもとエスキス作成を繰り返す。授業では個別に指導を行い節目ごとにクラス全体に対しプレゼンテーションを実施し発表する能力も養成する。前半は設計手法習得のため全体共通の2～3の課題を予定している。	3 前	90	3			○
	○		建築設計製図実習Ⅵ	建築設計製図実習Ⅵでは、建築設計製図実習Ⅴに引き続き個別に建築的なテーマを設定し、作品を制作する。自宅学習と授業で指導教員のもとエスキス作成を繰り返す。併せて建築模型も制作し最終の講義では一人ずつクラス全体に対しプレゼンテーションを実施し発表する能力も養成する。	3 後	90	3			○
	○		建築設計製図実習Ⅶ	建築設計製図実習Ⅶでは、木造住宅をテーマとして実務に即した建築設計製図実習を実施する。建築設計製図実習Ⅵと同様に個別に建築的なテーマを設定し、作品を制作する。自宅学習と授業で指導教員のもとエスキス作成を繰り返す。最終の講義では一人ずつクラス全体に対しプレゼンテーションを実施し発表する能力も養成する。	4 前	90	3			○
	○		建築設計製図実習Ⅷ	建築設計製図実習Ⅷでは、建築設計製図実習Ⅶ同様に個別に建築的なテーマを設定し、作品を制作・発表する。自宅学習と授業で指導教員のもとエスキス作成を繰り返す。授業では個別に指導を行い節目ごとに学内全体に対しプレゼンテーションを実施し発表する能力も養成する。	4 後	90	3			○
	○		建築設計製図実習Ⅸ	建築設計製図実習Ⅸでは、建築設計製図実習Ⅶ同様に個別に建築的なテーマを設定し、3次元CADにより作品を制作・発表する。自宅学習と授業で指導教員のもと制作を繰り返す。授業では個別に指導を行い節目ごとにクラス全体に対しプレゼンテーションを実施し発表する能力も養成する。	4 後	90	3			○

	○		建築設計製 図応用実習 I	各講義、各設計製図実習等で得た知識、技法を 基に小規模一般建築の配置図、平面図、立面図、 断面図、矩計図等の基本設計図一式を数多く実 習することにより、短時間で設計製図する能力 を身につける。	3 前	180	6			○
	○		建築設計製 図応用実習 II	建築設計製図応用実習 I で得た知識、技法を基 に中規模建築の基本設計図一式を数多く作成 することでより高度なプランニング力と作図 力を身につける。	4 前	180	6			○
	○		木造設計製 図応用実習	木造軸組（在来）工法の 2 階建戸建住宅を各講 義、各設計製図実習等で得た知識、技法を基に 基本設計図一式を数多く実習することにより、 短時間で設計製図する能力を身につける。	3 後	90	3			○
○			C A D 実習 I	パソコン実務に即する C A D の基本機能及び 作図方法を習得する。具体的には、前半 2 次元 作図の基本を学び、後半 SketchUp を用いてモ デリングの手法を学ぶ。	1 前	60	2			○
	○		C A D 実習 II	C A D 実習 I で学んだ C A D 作図の基本を元 に Autocad の習得を目指す。さらにビジネス系 ソフト（Excel・Word・PowerPoint）を使用し、 実務に必要な書類作成能力を身につける。	1 後	60	2			○
	○		C A D 実習 III	C A D による建築図面の表現技法および図面 の作成技術を習得する。具体的には、JW-CAD 演習（RC造平面図・立面図、木造平面図・立 面図・矩計図・伏図、測量図、敷地図等） JW-CAD の応用（その他の C A D とのデータ互換）につ いての理解を深める。	2 前	60	2			○
	○		C A D 実習 IV	3 D C A D（Vectorworks）による建築図面の より高度な表現技法および図面の作成技術を 習得する。具体的には、プレゼン演習の基礎 （Power Point によるプレゼンテーションの基 本）、プレゼン演習の実践（Power Point によ る自作品の制作）、作品発表を行う。	2 後	60	2			○
	○		C A D 実習 V	建築および室内の空間・装飾・整備・色彩など の各種インテリアデザインのプレゼンテーシ ョン基本技法をコンピュータツールを用いて 学習する。ソフトは AutoCAD を使用する。	3 後	60	2			○
	○		C A D 実習 VI	住宅、店舗、オフィス空間等における室内装 飾・装備・色彩などの各種インテリアデザイン およびエクステリアデザインをコンピュータ ツールを用いて学習する。C A D による建築図 面のプレゼンテーション応用技法を習得する。 ソフトは Vectorworks を使用する。	4 後	60	2			○

○			測量実習 I	基本的な測量機械についての構造、検査調整法、使用法を十分に理解し、さらに各種測量法の基礎的な知識と技術を学び、総合された応用力が発揮できるだけの能力を養う。	1 前	60	2			○
	○		材料実験	各種材料、特にセメント、コンクリート、鋼材、木材等について、その材料の持つ特性を学び、建築物に合理的に利用する能力と知識を、実験を通じて習得する。	1 後	60	2			○
	○		建築構造模型制作	建築の構造模型制作を通じて、建築構造の主体構造の骨組、納まり、名称、機能を理解する。主に木造在来構法で建てられる軸組模型を各人一人ずつ制作することで、木造構造における力学的な考え方を併せて習得する。	1 後	60	2			○
	○		建築意匠模型制作	自ら設計した建築の図面を用いて模型を制作することにより、図面から立体（空間）を把握する能力や模型を用いたプレゼンテーションの能力を身につける。併せて建築の色彩、仕上構法を理解する。	2 後	60	2			○
	○		都市計画概論	「建築／都市リサーチ」を実践するための思考を養う。建築を生み出すにあたり必要となる課題発見やその解決策を提案へとつなげていく力をつけることを目的とする。リサーチを行うにあたり必要な手順や作業を筋道立てながら学び、思考を深めていく。	3 後	30	2	○		
○			卒業研究	幅広い分野にわたる建築学科教育科目の集大成として、総合的な学習成果を期待するものであり、各自の建築に対する問題意識の中から発意した自由な研究テーマに取り組み、卒業研究としてまとめる。原則として教員の指導のもとに、作成を行う過程のなかで、研究に対する考え方や、問題点意識に対する具体的改善・提案方法を学び、研究内容の充実度、完成度を高めることを目的としている。	4 通	120	4			○
○			卒業研究専攻実習	建築学科教育科目の集大成として、総合的な学習成果を期待する卒業研究と連動し、卒業研究としてまとめられた内容を設計図面や模型として制作する。原則として教員の指導のもとに、作成を行う過程のなかで、研究に対する考え方や、問題点意識に対する具体的な表現方法を学び、プレゼンテーション能力を高めることを目的としている。卒業研究をもとに、図面作成、模型制作を行う。	4 通	60	2			○
合計				88科目	4,500単位時間（207単位）					